

4年 単元名「能登町の海について知ろう ～海そうのなぞにせまろう～」(8 時間)

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

- ・能登町沿岸には海藻が豊富にある事実を知り，海藻に関する知識を高める。
- ・海藻が能登町の恵みであることに誇りを持ち，海を大切にしようとする環境保全の気持ちを育む。

2 単元目標

陸の植物と海の植物の違いから海藻に関する興味・関心を高め，海の自然や恵みに親しみ，進んで能登町の海の環境保全について考えることができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	海藻に興味を持ち，調べ学習やインタビューをし，海藻を守るためにどんなことをすればいいか，課題を見いだしている。 課題解決に向けて必要な情報を収集し，計画的に調べている。 調べたことや考えたことを，相手意識を持ち，分かりやすく表現している。	海藻について調べ，海藻は海の恵みであることを理解し，海を守るために活動している。	課題解決するために，関係する専門機関の先生方や友達と，協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 ・ 2	学習の見通しを持ち，課題意識を持つ。 ・能登町沿岸の地図を提示し，海藻が豊富であることを理解する。 ・なぜ能登町沿岸部に海藻が豊富であるかについて考える。	・能登町の現状について捉えるために，地図やグラフ等を提示する。
3 } 5	海藻について調べ学習をする。 ・インターネットや本で調べる。 ・調べたことを発表し，もっと知りたいことについて話し合う。	・3つのグループに分かれ，インターネットや図鑑で調べる。
6 ・ 7	ゲストティーチャーを招いて海藻の学習をする。 ・実際に陸の植物と海の植物を観察し，違いを考える。 ・海藻についてゲストティーチャーの話を聞く。 ・海藻を試食し，海藻についてインタビューする。	
8	海藻についてまとめる。 ・ゲストティーチャーの話を聞いて分かったことを交流する。 ・海藻を守るために，自分たちにできることについて考える。	

外部連携 / 教材等

・能登里海教育研究所 谷内口 孝二先生 (GT)

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』

5 活動の様子



海そうのつくりの話



陸と海の植物のスケッチ



海そうの試食



調べ学習

6 成果・課題

能登町の海がきれいだからたくさんの海藻があることを理解し、環境保全について考えるきっかけになった。

ゲストティーチャーを招いたことで、調べ学習の時よりも海藻に対する意識が高まっていった。次単元とのつながりを明確に持たせることができず、児童の意識も薄れてしまった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・海そうについて知らなかったことがたくさん知れました。谷内口博士の話を聞いてもっと海そうをしりたいと思いました。
- ・能登町にはたくさん海そうがとれると分かりました。海がきれいだから海そうがたくさんあるので、海をこれからも守っていきたいです。わたしは、海の掃除をしたいです。
- ・谷内口博士、いろんなことを教えてくれてありがとうございました。海そうは冬に元気になると分かりました。陸の植物とは反対だと知りました。ぼくも海そうを守りたいです。

4年 単元名「小木発信プロジェクト ～イカしたCMでPRしよう～」(25 時間)

～海に親しむ・海を知る・海を利用する～

1 単元設定の理由

- ・「小木の町はイカの町」であることに誇りを持ち、能登町の人々に発信しようとする気持ちを育む。
- ・能登町の人々に「小木の町はイカの町」だと知ってもらうために活動する。

2 単元目標

イカについて興味を持って調べ、私たちの町を「イカの町」として能登町の人々に発信するために活動することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューをしたり、私たちの町を「イカの町」として、能登町の人々に発信するために、課題を見いだしたりしている。 課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	イカについて調べ、私たちの町を「イカの町」として発信するために活動している。	課題解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 } 3	学習の見通しを持ち、課題意識を持つ。 ・能登町の4年生の実態アンケートをもとに、小木の町について話し合う。 ・CMでイカのおいしさや新鮮さについてPRするゴールを設定する。	・小木の町の現状について捉えるために、アンケート結果を提示し、課題意識を持たせる。
4 } 10	イカのおいしさや新鮮さのひみつについて調べ学習をする。 ・インターネットや本で調べる。 ・調べたことを発表し、もっと知りたいことについて話し合う。 ・イカのおいしさや新鮮さの秘密を見つけるために、小木漁協に行く。	・3つのグループに分かれ、インターネットや図鑑で調べる。 ・漁協へ行き、インタビューする。
11 } 24	CMを作成する。 ・CMの内容、キャッチコピー、カットわりを考える。 ・試しのCMを撮影する。 ・試写会をし、改善点について話し合う。	・漁協でCM撮影をする。 ・全校児童、先生方に見ていただく。

25	学習活動をふり返る。	
外部連携 / 教材等		
・ 小木漁協 紙谷さん 秋脇さん		
【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』 能登町 HP「ふるさと CM」		

5 活動の様子



ミニ報告会の様子



漁協へ見学に行った様子



CMの内容を考える授業風景



CM撮影の様子

6 成果・課題

身近な教材を設定したことで、調べようとする意欲が高まり、以前よりも小木の町について詳しくなり、誇りを持つようになった。

5年生の学習につながる系統性を意識した単元の流れができた。

天候（雨・曇り・気温が低い等）によってCM撮影が予定通りに行えないことがあった。

撮影場所によって明暗があり、多様な撮影器具の必要性を感じた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・イカの体を漁協でもっと調べたいと思いました。加工品と料理が意外と多かったのでびっくりしました。イカの足は食べれないと思っていたけど食べれるので、イカを使った料理を食べたいです。
- ・わたしは、すぐ冷とうしたら新せんでおいしさが保つと分かりました。これが小木の自まんだと分かりました。
- ・冷とう保存では、調べたとおり新せんさが保たれるからおいしいと分かりました。小木のイカはとるのが大変だからおいしいと思いました。早くCMを完成させたいです。